

2021年11月26日（金）開催
IGS オンラインセミナーシリーズ（生殖領域）

『不妊と男性のセクシュアリティ』を開催にするにあたって

近年、生殖補助医療を受ける患者についての研究も増え、メディアでも不妊治療に関連する話題がしばしば取り上げられるようになってきました。しかし不妊といえば、今なお産む性である女性の問題というように考えられることが多く、一般的向けの雑誌、新聞記事、テレビ番組等、メディアが着目するのも、専門家による調査や研究でも、女性に焦点を当てた内容のほうが圧倒的に多いといえます。男性の生殖機能に関する医学的な研究は活発におこなわれていますが、国内外を通して、不妊男性を対象とする社会的側面や心理的側面からの調査研究等は未だ十分に行われているとはいえません。しかし、不妊の原因のおよそ半分には男性の要因も関わっているという報告もあります。1997年に発表された世界保健機関（WHO）の調査結果では、女性のみの不妊の原因がある場合が41%、男性のみ原因がある場合が24%、男女ともに原因がある場合が24%、原因不明が11%と報告されており、男性のみ原因がある場合と男女ともに原因がある場合をあわせると、不妊の原因の48%に男性要因もかかわっていることとなります。すなわち、不妊は決して女性だけの問題ではないのです。

不妊のカップルは、子どもを希望するならば、不妊の原因が男女のいずれにあるかにかかわらず、女性が主に生殖医療を受ける主体となります。そのため、不妊の原因が男性にある場合、そう診断された男性たちは、自分が変わって治療の負担を背負うことになる自分のパートナーを前に、自分の不妊についてどのように感じ、その現実をどのように受け入れ、向き合おうとするのか、また女性に不妊原因がある場合とは、どのような点において違いがみられるのか、そうしたことを知り、理解する事は、今後の生殖医療のあり方を考える上でも重要であると思います。男性不妊は男女の関係性やジェンダーロール、男性・女性のセクシュアリティの問題とも深くかかわる重要な問題なのです。

そこで、この男性不妊に焦点を当て、専門家のみならず、一般の皆様も交えて、男性不妊に関連する問題を議論できればと思い、このセミナーを企画し、IGS セミナー（生殖領域）『不妊と男性のセクシュアリティ』を2021年11月26日にオンラインで開催しました。このセミナーには、2人の男性不妊について研究をしてこられた研究者をお招きし、講演してもらいました。1人目の登壇者は山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座の特任助教の由井秀樹さんで、「戦後日本における男性不妊の語られ方」と題してご講演いただきました。人文・社会科学系の研究者で生殖医療に関連する問題に取り組む男性研究者はそんな

に多くはありませんが、そんな中で、由井さんは今回、1914年からすでに100年以上も続く読売新聞の「人生案内」というコーナーに寄せられた、男性不妊によって子どものいない男性当事者、また不妊の夫を持つ女性からの悩み相談56例の分析結果を中心に、男性と不妊をめぐる問題について何が語られてきたかを紹介してくれました。2人目の登壇者、竹家一美さんは、社会学、ジェンダーおよびセクシュアリティ研究の分野から、長いこと男性不妊について研究をすすめられてきました。今回の講演では、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科で取り組まれた博士論文をベースとしてまとめられ、2021年4月に出版された『日本の男性不妊—当事者夫婦の語りから』（2021年晃洋書房）の中で紹介した研究調査結果等を中心に男性不妊に関する分析についてお話し頂きました。

本セミナーには登壇者、スタッフも含めて、合計で109名の方が参加され、その中には男性不妊の当事者や医療者も多くいらっしゃいました。今後も不妊の問題について、専門家のみならず一般の方も交えて、男女双方の視点から議論できる機会を作って行けたらと思います。

2022年1月

IGS オンラインセミナー（生殖領域）企画および報告書編集作成責任者

お茶の水女子大学ジェンダー研究所

特任講師

仙波由加里